

立命館宇治中学校・高等学校 2024 年度学校目標年度末報告シート

スクール・ミッション

学校法人立命館は、建学の精神に「自由と清新」、教学理念に「平和と民主主義」を掲げて歩んできました。2006 年に制定された立命館憲章は立命館大学と附属校全体の教育研究活動の根幹となるものです。立命館憲章は単に形式的に定められたものではなく、立命館学園を構成するすべての学生・生徒・児童、教職員に共有されるべきものであり、これを本校のスクール・ミッションと位置付けます。

教育目標

立命館宇治中学校・高等学校は、立命館の建学の精神「自由と清新」と、教学理念「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく知性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と論理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的発展に貢献する。

スクール・ポリシー

1 入学者の受入れに関する方針 Admission Policy

- 1 本学の建学の精神、教学理念を理解し、本校のスクールミッションに共感できる児童・生徒
- 2 本校での学びに高い関心を持ち、探究心と好奇心をもって学習に臨む児童・生徒
- 3 多様な生活体験や考えを持つ人々と、話し合い、認め合う精神を有する児童・生徒

さらに、海外での生活体験や、文化・芸術・スポーツにおいて顕著な活動実績を有し、学校コミュニティ全体を豊かにするリーダーシップや協調性を持ち合わせ、多様な集団の一員として活躍する児童・生徒を歓迎します。

2 教育課程の編成及び実施に関する方針 Curriculum Policy

- 1 基礎学力を育み、将来の進路を見据えて個々に応じた幅広い学習に取り組むことができる教育課程を編成します。
- 2 国際社会において通用する、日本語と英語を中心としたコミュニケーション能力を修得することができる環境を提供します。
- 3 自分と異なる生活体験や考えを持つ人々と交流し、多様な価値観に触れることができる環境を提供します。
- 4 スポーツや自主活動に積極的に取り組み、また、取り組む仲間の活躍を応援する精神を育むための環境を提供します。
- 5 興味・関心のある事柄を掘り下げて探究し、発展・具現化を目指した活動に取り組むための支援を行います。
- 6 多様な価値観を持つ集団において、互いに尊重しあい、崇高な道徳心や倫理観を育むための教育を実施します。

3 育成を目指す資質・能力に関する方針 Diploma Policy

- 1 大学などでの高等教育を受けるにふさわしい基礎学力と倫理観を有している。
- 2 多様な社会で通用するコミュニケーション能力と異文化理解に対する教養を身につけている。
- 3 国内外の課題について自ら解決に向けて実践する能力と精神を身につけている。
- 4 グローバルな視点で社会貢献する精神と行動力・発信力を身につけている。

重点課題

重点課題は、現時点では普遍性をもっており、内容を変更する必要はないと考えます。しかしながら、それぞれの語句の持つ意味、たとえば、AI が人間知を超える時代の「『高い学力』とは何か」、自動翻訳が普遍化したときに必要な「優れた外国語運用能力は何か」ということを教員自身が問い、生徒に問いかけていくことが必要と考えます。

- I. 優れた教養と学力をもち、自ら学び・考える生徒の育成
- II. 優れた外国語運用力をもち、多様性を受け入れ、異文化を理解・寛容できる生徒の育成
- III. 優れた倫理観と規範意識をもち、責任感をもって社会や世界に貢献できる生徒の育成
- IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働して新しい学校づくりに貢献できる教職員の形成
- V. 地域・保護者に信頼された学校ブランド力の向上
- VI. 魅力ある教育を支える体制と、生徒が安心・快適に学べる環境の整備
- VII. 60・30 周年事業の実施とそれを契機とした長期展望の共有

I. 優れた教養と学力をもち、自ら学び・考える生徒の育成

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	★学力推移調査(中)、スタディ・サポート(高)の導入による基礎学力の客観化と学力分析	○
(イ)	★個別最適学習の導入と成果検証	○
(ウ)	IP コースと IB コースの連携強化	◎
(エ)	海外大学へ進学を希望する生徒への情報提供と指導の充実	◎
(オ)	中・高 6 年間を通した「探究」的学びの実践	◎
(カ)	AL ネットワークなど、学外リソースを活用した学びの推進	◎
(キ)	★生徒が自ら学ぶカリキュラムを目指した教育課程の検討継続	△
(ク)	立命館大学・APU などの大学と連携した講座の実施	◎

II. 優れた外国語運用力をもち、多様性を受け入れ、異文化を理解・寛容できる生徒の育成

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	高 3TOEFL430 点以上の達成率 80%	○
(イ)	英語によるスピーチコンテストなどの開催	◎
(ウ)	第二外国語の取り組みの推進	○
(エ)	留学・海外研修旅行・GCP などによる異文化体験	◎
(オ)	★留学生の受け入れによる異文化体験の機会の創出	◎
(カ)	平和・人権・環境を考えさせる取り組みの実施	○
(キ)	日本語ハンディキャップをもつ帰国生への学習支援	○
(ク)	★発達特性を持つ生徒への対応スキルの研究	○
(ケ)	異なる生活・文化背景をもった寮生相互の理解と寛容の促進	◎

III. 優れた倫理観と規範意識をもち、責任感をもって社会や世界に貢献できる生徒の育成

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	清掃・持ち物管理など、環境に配慮できる指導と紛失・盗難の撲滅	○
(イ)	★インターネット・SNS との関わり方を学ぶ機会の提供	○
(ウ)	★いじめや人権侵害を許さない学校風土づくり	○
(エ)	SDGs の達成を目指して活動・生活できる指導の推進	○
(オ)	生徒会・委員会活動など自主的組織の活性化	◎
(カ)	学園祭など生徒が自発的に運営する企画の推進	◎
(キ)	学業・自主活動・クラブなど、多様な活動へのバランスの取れた参画推進	◎
(ク)	全校応援など学校への帰属意識と誇りを実感できる取り組みの推進	○
(ケ)	生徒相互の奮闘を励まし合える関係づくり	○
(コ)	★性モラルの向上	○

IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働して新しい学校づくりに貢献できる教職員の形成

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	研究授業・公開授業・研究会の開催	○
(イ)	ヒューマンエラーによる事例の共有と再発の予防	○
(ウ)	生徒指導力と保護者対応力の向上のための研修	○
(エ)	★ハラスメントに関する最新の社会動向の研修	△
(オ)	★協働による業務の平準化と超過勤務の抑制	○
(カ)	★科学的で合理的なクラブ指導の研究	○

V. 地域・保護者に信頼された学校ブランド力の向上

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座など実施	○
(イ)	公共交通など、公共の場でのマナー向上	○
(ウ)	授業参観や懇談会の実施による保護者理解の推進	◎
(エ)	保護者アンケート・生徒アンケートによる実態把握	◎
(オ)	★説明責任を果たせる生徒指導内規の整備・運用	◎
(カ)	★学校の取り組みや、在校生・卒業生の活躍の広報	○
(キ)	他の附属校と連携した取り組みの実施	△
(ク)	学校案内やパンフレットの更新と広報のWEB 比率の強化	◎
(ケ)	Rits Kids による英語学習環境の提供	○

VI. 魅力ある教育を支える体制と、生徒が安全・安心に学べる環境の整備

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	予算配分の適正化	△
(イ)	★DX 推進予算・三菱未来財団など、外部資金を活用した新たな教育実践	◎
(ウ)	業務フローや諸制度の見直しにより、マンパワーに頼らない業務改善	△
(エ)	★持続可能なクラブ活動の体制検討	△
(オ)	別室登校生徒の教室環境の整備	◎
(カ)	★具体的な使用イメージを想定した新生徒寮の詳細検討	◎
(キ)	★什器の更新を活用した学び空間の有効活用	◎
(ク)	施設の計画的修繕と危険予防	○
(ケ)	大規模災害に備えた訓練と防災対策	○
(コ)	学外の活動での安全確保と不慮の事態を想定した計画づくり	○
(サ)	寮生の健康管理と安心・安全に配慮した寮運営	○

VII. 60・30 周年事業の実施とそれを契機とした長期展望の共有

達成目標（当年度目標）		評価
(ア)	★記念イベント（11 月 9 日予定）の成功	◎
(イ)	★次の 30 年を見通した学校像の在り方議論	○
(ウ)	生徒・教職員が帰属意識とロイヤリティーを感じられる雰囲気づくり	○

達成状況

年度初めにスクール・ポリシーを策定し、当年度の重点課題に対する達成目標・施策を大きく改め、特に重点化する施策には★をつけている。多岐にわたる目標について、評価が十分ではない施策もあるものの、おおむね達成できている。

海外渡航も含めてさまざまな取り組みを平時に戻すとともに、体育大会・体育祭、興風祭や学術祭などのイベントはもちろん、探究公開研究会や IM コースの留学報告会、中学では総合学習や QUEST の発表会など、多くの機会に保護者や学外来校者を招いた生徒の活動の発表の場を設け、本校の教育を十分に発信できたと思われる。

高校では新学習指導要領施の完成年度を迎えることとなり、全学年の学習評価が観点別評価制度に移行された。

DX ハイスクール指定や、継続する三菱みらい財団からの助成を受け、中高ともに探究の学びをさらに深めることができた。プロジェクトの活性化、学外への発信も含め、その取り組みは充実したものとなった。

改善策

周年事業の一環として教育課程の改定を据え、昨年度から議論を重ねてきたが、現時点では当初想定 of 2026 年度からの改定のめどが立っていない。2027 年度からの改定を目指し、まずは学校執行部による方針の策定が求められる。

コロナや季節性インフルエンザの感染拡大は、昨年度と比較するとわずかにとどまったが、3月には生徒寮でのノロウイルスの感染拡大による体調不良者があり、引き続きの感染拡大防止の策が求められる。

また、3月には深夜の不審者の侵入があった。学校への危害を目的としたものではなかったが、セキュリティラインの見直しは喫緊の課題である。

働き方改革も5年を終え、業務改善などのさまざまな施策を実施してきた。2026年度からの予算措置の見直しも含め、部活動改革、少子化、物価高騰、円安などのさまざまな課題を抱える中、立命館宇治の将来構想について、活発な議論が求められる。特に、IMコースの留学をはじめとする海外渡航の費用高騰については、その手当の検討が急がれる。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	亀田晃巖 氏（唯明寺住職）， 山仲修矢 氏（教育後援会会長）， 出雲健彦 氏（鳳凰会会長）， 谷 康平 氏（保護者会会長）， 水落茜 氏（保護者会副会長）， 引原康充 氏（保護者会副会長）， 吉原麻奈加氏（保護者会副会長）， 横澤広久 氏（立命館一貫教育部部長）， 森田真樹 氏（立命館大学大学院 教授）， 浮田恭子 氏（元副校長）， チャールズ・フォックス 氏（元校長）， 金光健一 氏（元中学教頭） 越智規子（校長）
開催日程 主な議題	第1回：2024年6月18日（火）10:30～14:00「2024年度活動方針」「WOWプログラム視察」 第2回：2025年3月27日（木）10:00～12:00「2024年度学校総括について」
評価・改善 事項	外部模試の偏差値からは基礎学力の低下が見て取れるが、卒業生のRU/APUでのGPAは高い。大学からも宇治を含めて附属校生の評価は高く、このことを保護者や外部に発信するべきである。ただ、探究学習の取り組みを高度化しながらも基礎学力は担保していくべきである。 広報の面で課題は多い。探究、グローバル、課外活動など、外部に発信できる取り組みが多数ある本校から、SNSの活用も含めた情報発信のあり方を見直してほしい。 財政赤字では経営として成り立っていない。全体として危機感がなく、教職員に投げかけないといけない。執行部がリーダーシップを持つためには理想とビジョンを持っていないと対応できない。 校地内に新寮ができることを絶好のチャンスととらえて欲しい。新しい教育が生まれ、日本のどこにもない可能性を感じる新しい教育モデルになりうる。全寮制でない点から面白いインタラクションが期待できる。 本校はグローバルという強みを持っている。ここをベースにするとストロングポイントになる。これからの本校がどこに向かうのか、これを差別化していけばチャンスとなる。 2024年10月30日一貫教育委員会で議決された「学校関係者評価委員会組織の見直しに伴う「学校関係者評価委員会規程」の一部改正について」に従い、2025年度以降の当委員会の委員には、評価を受ける学校の教職員を含めることはできないため、校長を委員に任命しないこととする。また、より客観的俯瞰的な評価をいただくため、2026年度以降の委員会体制として、外部の企業などからの委員派遣委嘱を追求したい。